

PET/CT 検査の被ばく

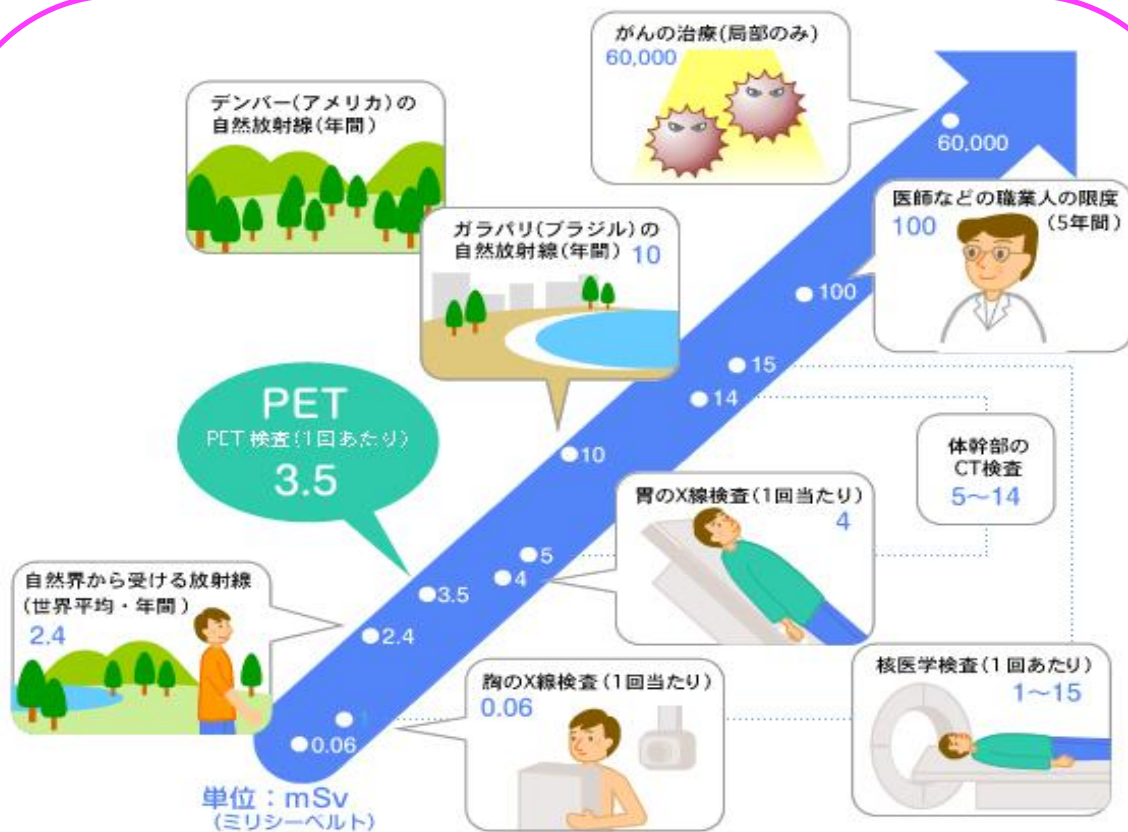
PET/CT がん検診では、PET の検査薬 (FDG) と X 線 CT による被ばくがあります。PET/CT 検診は、高精度の検査機器を使用し、ガイドラインによって適正化された方法で検査を行っています。体格に応じて FDG や X 線の量を調整し、被ばくをできるだけ少なくしています。また、検査時間を短縮して受診者の負担を軽減しています。

CT は X 線量を低く設定しているため、通常の診療と比較して、CT 単独の精度は劣りますが、今回の検診は PET が主役、CT は従と考えて診断します。

被ばく線量は、体格などによりますが、PET で約 3.5mSv、CT で 2.5~6mSv、合計でも 10mSv 未満です。

FDG の放射エネルギーは 2 時間ごとに約 1/2 になります (6 時間で 1/8)。また尿からも排泄されていきますので、ご自身の体への影響はほとんどありません。体外に放出される γ 線によるご家族などへの影響も心配のないレベルですが、念のため検査当日だけ、小さなお子様との密接な接触は出来るだけ避けてください。

妊娠中または妊娠の可能性のある方には、検査を行いません。



PET 検査や他の画像診断の被ばくと日常生活で私たちが自然に受ける被ばく (PET/CT の場合、被ばく線量は 5~10mSv)